# 全国コンサートへ

## 松山千春

いよいよ三月六日から全国コンサートへ旅立つことになった松山千春の公演スケジュールはつぎのように決まりました。

◎三月
6日　福島県平市文化センター
8日　仙台市民会館
9日　八戸市公民館
15日　秋田市産業会館
17日　岩手県民会館
24日　STVのケンボーにゲスト出演
25日　函館市民会館
26日　釧路市民会館
28日　釧路厚生年金体育館

◎四月
1日　栃木県民会館
12日　茨城市公民館
13日　埼玉市公民館
19日　東京厚生年金ホール
21日　新潟県民会館
25日　苫小牧市民会館

◎五月
6日　札幌厚生年金会館でゲスト出演
7日　大阪読売文化ホール
11日　群馬県民会館
12日　横浜県立音楽堂
13日　千葉県立教育会館
14日　福岡九電記念体育館でゲスト出演
27日　東京日比谷音楽堂でゲスト出演
29日　岡山市民文化ホール
30日　島根県民会館
31日　広島県民会堂

◎六月
12日　山口市民会館
14日　宮崎文化ホール
15日　鹿児島中央公民館
21日　青森ルナホール
22日　宮城教育文化ホール
25日　徳島郷土文化会館
26日　松山市民会館
27日　高知県民文化ホール

これらはいずれも毎週月曜日のSTVの『アタックヤング』と毎週日曜のニッポン放送の『[illegible]ナイト』の深夜番組[illegible]けもちながらのコンサートとなるのでいきおい連日旅行続でトンボ返りの離れわざをこなすために、札幌と東京の事務所には千春専門の秘書係がいて、支障のないようにつとめています。

一連の全国コンサートのなかで注目されるのは四月十九日の東京と、五月十四日の福岡で、九電体育館といえば大相撲九州場所でおなじみの大会場だけに、ギター一本の千春の歌がどのようにうけ入れられるかということです。

## テレビドラマにとりくみ

STV創立二十周年記念に制作中のドキュメンタリー・テレビドラマ『一年』に千春が音楽を担当して、きたる五月の全国放送をめざしてとりくんでいます。

これは昨年の春から撮映に入っていたもので、この二十三、四日の釧路ロケーションによって制作は大詰に入り、これらの映像によって倉本聰がシナリオ化して、千春のオリジナル由による歌でドラマをつづるという新しい手法となっています。

## 読者の室

私の娘が、大の千春くんファンで、毎日聞きあえば千春くんで、そんなに素的な歌なら聞いて見ようとLPなるものを聞きました。

若者は〝耳〟をつんざくような音楽だけに、しびれるものと思っておりましたが、千春くんの音楽は、人の心をなごませてくれるような、静かな感じのものが多く、感動しました。

おりしも、私が身体を悪くし医大に入院。

娘の持ってくる、カセットテープを、病室でイヤホーンで聞いておりました。

たまには、となりのベッドの彼女も、千春くんのファンで、娘から聞く千春くん情報を、楽しみに待つている位ですから、夜、ひるを問わず、テープを聞いてはすつかり放心まで陶然し、新由を出るのを、それこそ指折り数えて待つている様でした。

私は、全快前に、退院へ（美容師）術、正月前に退院しましたがその後も病院より電話をよこしたり、手紙をよこしたり「荘」のつく千春くんファンでしたが、あんなに楽しみに待つていた新曲のテープを、娘が届けたときは、すでにおそく二十五日のLP発売コンサートの当日、朝早く、急に容態が悪化し、亡くなりました。

私もびつくりし、悲しい思いをいたしましたが、娘も大変なショックで、テープとサインを仏前でも届けてと、私にあずけてあります。

近日中、先方の人々が落ちつき次第、あんなに待つてたものですから、出げる予定でおります。

彼女よりの最後の手紙に長い入院生活の中に千春くんの歌は、光を投げかけてくれたとありました。

三十五才になる女性でしたが、素直に千春くんの音楽にみせられていた様で、何か、今、しみじみと、千春くんの音楽を聞いているところです。

あなたの知らないところで、この様な事もあつたと言うことを知つて頂くために、なれない筆をとつた様なわけです。

今後も益々御活躍の度、期待しております。

セカンドアルバムも、娘がいちはやく手に入れてくるので、聞いております。

今後からは、レコード代は、私が負担する事になりそうですね。

精々頑張つて下さい。

青春は再びこないもの、只今青春のまつただ中の千春くんや、家の娘達の年代、この素晴しい限りない可能性を秘めている年代を、私たちには、うらやましすぎます。

あなたのファンの中にはこんなおばさんの様な、年代の人もいる事を、お忘れなく。

（札幌市中央区在住33才のファンより）

☆　☆

一月三十日の熊本でのコンサート、とても感激して帰つて来ました。

そこでまた、熊本でコンサートをと思つていたためですが、「夕べのひととき」を聞いていたら、何とあなたの「銀の雨」がかかり、六月には県民会館で、コンサートを予定してありますうれしくてうれしくて、今夜は眠れそうにありません、と言つても今夜は仕事で、居りたくても明朝九時までは、働かなければ……ここ数日、スチレオには二枚のLPが、交互にまわつてます。

この年になつて一日中部屋にとじこもつて、レコード聞いているのはさびしい感もするのですが、あまりにもレコードが気に入つてしまつてあなたと同じ二十二才になつてまでもコンサートには必ず、出かけている私です。

十二月の半ばにあなたの存在を始めて知り、一月十五日の番組を聞きにいつてからと言うもの、すつかり気に入つてしつまて、期待してのコンサートでした。

そして期待どおりの、素晴しいコンサートでした。

（熊本の日・Sさん）

☆　☆

千春のオールナイト、サンクランド在通ニッポニアして待つています。

たつたの二時間だけど、貴重な千春とファン、みんなの集い、ひとときだもんね…。

でもーあれは、かぼいぜー。せめて、おかま風の人でもええから、心をこめて入れた、お茶位ねー。

『言が好きき』テンポのある曲だけど、好きでさまなんか私の胸に、ズキンとさまやかれてるよう「大空と大地の中で」は大好きで、目をつむつて聞くと、まだ行つた事もない北海道の大地に、緑やみの中一人ポツンと立つて、朝日が昇つて行くのを見つめながら、ゆんでゆく道を快感して。ゆみ出そうとしてるそんな情景がうかぶんです。

そして、今までの自分の生きざまを考えさせられて生きてゆくことが、素晴らしく思えるんです。

いつまでも、北海道の男で……。

これからも、どひやどひや九州に来て下さい。

（長崎のK・Mさん）

☆　☆

私は受験生の一人ですが時々勉強がいやになり「もうどうでもいい！」と言う気持ちになるためです。

でもこんな時、松山さんの歌、ラジオから流れ出てくる声を聞き、頑張らなくては……と気を取りなおすんです。

そして、松山さんが口ぐせのように言つている〝努力〟と言う言葉が、耳に焼きついて離れないのです。

何か事を忘たつた時、松山さんにしかられるようなそして「これからも頑張れ」ときびしさの中に、やさしさがあるような言葉で、ガンバツているお父さんのあとをついでは…』とお説教？のひと言もあつたものですが千春は『父のように新聞で生活する自信はもてない』と答えていました。

そのころ毎週一サン・ジャン」で『千春のひとりうた』だけを担当していた新名の新人だつたし、番組のテーマにそつたヤリトリになつたわけで、これが一所懸命と頑張送だつたのではわりと女性つぽいのですね。

多忙でナイーブつて、ふいんき……そこが千春ファンとなつた、ゆえんなのですが……考え方、感じ方、生き方が相通ずるところがあると思うのは、私のひとりよがりかな？。

（豊別のK・Sさん）

☆　☆

今日、独占プロデュース聞きました。

なんだか泣けてきちやつて……自分でもなぜかわからないほど……やはり北海道の人だなーつて、思わせるような六十分間でした。

最後の方で〝やつぱり北海道でうたいつづける〟と言つてくれた時、とつてもうれしかつた。

本当言うとこのごろ、東京の方ばつかり行つてるみたいだし、だんだんむこうのファンにひつぱられて、北海道を離れて行つちやうんじやないかな？つて、心配してたのです。

本当によかつた……千春君、これからもがんばつて下さい。

（浜益のN・Sさん）

☆　☆

週刊『女性自身』では千春とその家族と足寄を取材に来町、近くグラビア四頁で掲載するそうです。

## 中学生時代の千春

幼稚園から小学校にかけての千春はからだが弱い方でしたが、中学校に入ると級の級里子のあとをついでバスケットボールに夢中になつてからはとても健康になりました。

なんでもスポーツは好きで朗らかで成績もよい方だつたので生徒会長に選ばれたりしましたが、当時の校長は「生活信條」という、どちらかといえば牛徒をしばるような、PTAにはようこばれそうな学校内規約なものをつくつて校内での徹底につとめたものでした。

これに対して千春は生徒の権利を代弁した形で「生活信条に思う」と題して校内弁論大会に出場し、さらに全町中学校弁論大会でこれで優勝（右はそのときの写真）しました。

このあとも千歳中学校弁論大会に足寄を代表して出場して最優秀賞と大トロフィーを獲得して帰つてきたものです。

このように中学生時代から多勢の人の前でモノをシケベることに慣らされたということが、こんにちのスターの資格ともいえます。

## 千春に歌をやめたら？

上の写真は一昨年八月に日本テレビの『たつたひとりの新聞社』に出演したときの場面で、司会の〝ヤコ姉〟と湯原昌幸の右側から給里子、千春、明人、左端から明、美代子の松山一家総出演で、このなかで様々が千春に対して『フォーク歌手なんかになるよりも、貴のためを思のために、なぐさめてくれるような気がしてならないのです。

だから私にとつて、松山さんとは〝心の中の兄貴〟なのであります。

（厚岸のU・Tさん）

☆　☆

私が始めて千春の歌を聞いたのは、宗屋のコンサートの時です。

HBCは聞いても、STVは聞いた事なかつたので全くの知識のないまま、友人に進められ、喜があがるまで、女性ツンガーと思つてたくらいですから……歌を聞いた時のショックと言つたら、なんで女性ばかりそれもキャーキャー「千春がネー」なんて言つてるのを見て、不思議には思つたのですが……。

それからの歌とおしやべりに、私もすつかりまいつてしまつたのです。

「旅立ち」と「銀の雨」のうたの時では、なんと不覚にも涙を流してしまつたのです。

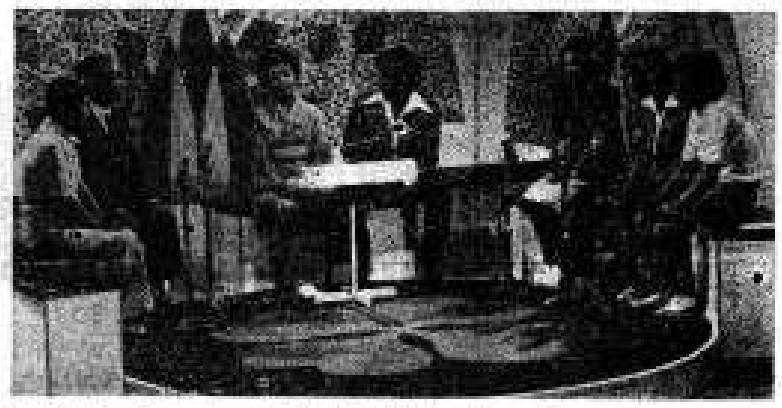
それほど貴方の歌は、一度聞いただけの私の心の中に、入りこんできてしまつたのですね。

もようつと以外なのは、千春さん本人は、見たかんじと印象は、男つぽくリイルドなかんじなのに、作る歌で、この様な事もあつたと言うことを知つて頂くために、なれない筆をとつた様なわけです。

今後も益々御活躍の度、期待しております。

セカンドアルバムも、娘がいちはやく手に入れてくるので、聞いております。

今後からは、レコード代は、私が負担する事になりそうですね。

精々頑張つて下さい。

青春は再びこないもの、只今青春のまつただ中の千春くんや、家の娘達の年代、この素晴しい限りない可能性を秘めている年代を、